医師の目

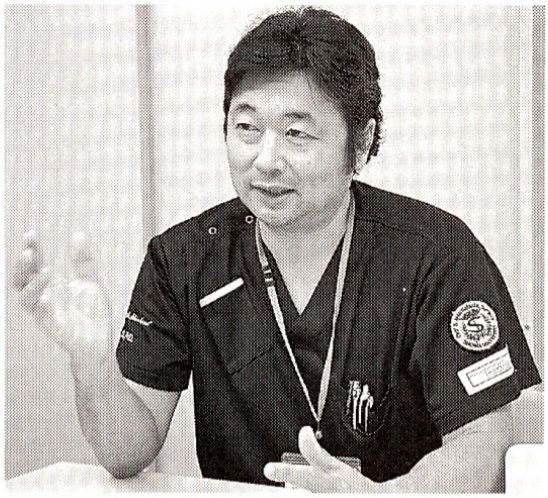
歯科医加えチーム医療

昭和大学歯学部顎口腔疾患制御外科学講座教授　新谷 悟氏 ①

医師不足である。地域間で医療格差が生じ、外科、麻酔科、産婦人科などで特に深刻だ。

私は舌がんなど口の中にできる口腔（こうくう）がんを専門にする歯科医師（歯科口腔外科医）である。歯科医は過剰といわれているが、歯科医が医療危機の克服にあたって果たす役割は小さくない。

例えば、全身麻酔手術は過去10年余りで5割近く増えている一方、口腔外科の手術で全身麻酔を行う「歯科麻酔医」は全国に約1000人いる。「一定の研修を終えた歯科麻酔医を、麻酔科専門医のいる基幹病院で手術麻酔に従事できるようにし、麻酔医不足解消に役立てるべきだ」との民間の提言もある。顎顔面痛や頭頸（けい）部手術の麻酔に歯科麻酔医の参加を促してはどうか。



歯周病の治療で糖尿病の進行を抑えたり心筋梗塞を予防したりできることが報告されている。手術の前後に口の中を清掃すれば、肺炎などの合併症を減らせる。内科病棟や術後の集中治療室などの現場で、歯科医を加えたチーム医療をさらに進めるべきだ。

ただ、真のチーム医療が実現している医療機関は少ない。私が勤務する昭和大学は医療系総合大学として、今後の医療を担う医師、歯科医師、薬剤師、看護師、医療従事者のチーム医療の重要性を学生時代から教えている。十分な相互理解と協力によって患者中心の医療に近づく。

歯を治療して噛（か）めるようになることで健康を取り戻す道筋は「口の健康から全身の健康へ」といわれる。さらに、歯科医院で治療前に血圧や血糖を測り、異常値が出たため内科に紹介して高血圧や糖尿病が見つかる場合もある。生活習慣病の発見や予防の一端を歯科医が担うことが、国民の健康でよりよい生活を支えることに通じる。まさに「口の健康は全身の健康」につながるのである。

しんたに・さとる　1961年生まれ。岡山大歯学部卒。愛知県がんセンター頭頸部外科、ハーバード大留学、愛媛大医学部助教授を経て2006年より現職。日本口腔外科学会指導医、日本癌治療認定医機構暫定教育医。著書に「開業医だから発見できる口腔がん」など。

生活面「医療」の記事やコラムに関するご意見、情報をファクス（03・6256・2774）か電子メール（iryou@tokyo.nikkei.co.jp）でお寄せください。

医師の目

混合診療、歯科で試行を

昭和大学歯学部顎口腔疾患制御外科学講座教授　新谷 悟氏 ②

手先が器用で、勤勉な医師や歯科医が提供する日本の医療の質は国際的にも評価が高い。さらに、日本には誰もが必要なときに必要な医療を比較的安く受けられる国民皆保険という世界に誇れる制度がある。医療・介護は国民全体が使う公共財であり、医療の提供側、患者側ともにルールが必要との認識に立つ。

しかし、国民は日進月歩で進む医療の進歩の恩恵に十分浴しているだろうか。

ドラッグラグ（新薬承認の遅れ）とデバイスラグ（医療機器導入の遅れ）という問題がある。

新薬承認の遅れは広く知られ、行政も解決に向けた取り組みを始めた。医療機器も日本で利用できるのは欧米の半分程度。古い機器が多いことが長年指摘され、現場でもその状況を感じることが多い。海外の学会などで優れた先端機器に触れても、国内で使うには高い壁が立ちはだかる。やはり改善の取り組みが始まっているが、更なるスピードアップを切望する。

この問題における解決策の一つとして、健康保険が利く診療と自由診療を併用する混合診療の解禁を提案したい。厚生労働省は混合診療を厳しく制限する一方、健康保険の対象外のがん治療薬の使用など一部の薬や治療法については混合診療を例外的に認めつつある。

医療全体で一気に混合診療を認めるのは難しいだろうが、歯科医療では、貴金属を用いた歯の修復や、インプラント（人工歯根）治療などに自由診療が広く行われている。そこで、歯科医療をモデルとして混合診療を解禁し、そのメリットとデメリットを検証してみてはどうだろうか。

大学病院にいる私は、医学研究の遅れや医学研究に携わる研究者が減少している現実を前にして、将来に強い不安を感じる。

レベルの高い日本の医学研究は数々の成果を上げてきた。これを製品開発に結実させて臨床の現場につなげれば、国民の健康向上、生活の質改善に役立つ。さらに、日本発の先端技術として新市場を創り出し、経済成長にも寄与すると期待できる。

そのためには、先進医療を育てる環境の整備が欠かせない。大学は研究を推し進める社会的使命がある。研究のないところに進歩はなく、進歩のないところに優れた医療技術は生まれない。

研究成果を社会に生かすには大学発ベンチャーの設立も有効だ。行政の役割は極めて大きい。規制から育成へ政策をギアチェンジするときなのではないだろうか。

生活面「医療」の記事やコラムに関するご意見、情報をファクス（03・6256・2774）か電子メール（iryou@tokyo.nikkei.co.jp）でお寄せください。

医師の目

昭和大学歯学部顎口腔疾患制御外科学講座教授　新谷 悟氏 ③

体質を知り病気予防

少子高齢化に伴う医療費の高騰や、医療を取り巻く環境の変化に関する議論が活発になってきた。高齢者の増加で医療・介護制度は維持できるか、医療費高騰をいかに抑制するか……。政府が掲げる税と社会保障の一体改革を実現できるかどうかも不透明だ。

高齢社会の到来は、長寿というある意味で社会の理想が実現したと考えることができる。問題なのは、負担と給付のバランスが、世代間で大きく偏っていることではないだろうか。全ての世代が、安心できる長寿社会にするためには、従来のように年金・医療・介護の各制度をバラバラに手直しするのではなく、大胆な改革が必要だ。

医療に限っていえば、病気の予防に軸足を置くことが重要だ。どんな病気でも治療にはコストと時間がかかり、進行すればそれがかさむ。予防が本人の生活の質（QOL）や国の財政にもたらすメリットは計り知れない。

では、「病気にならない」ためにはどうしたらいいだろうか。自分がどのような病気にかかるリスク（危険）が高いかを知り、発症を防ぐための努力をするのは有力な方法だ。「そんなことは無理」と考えられてきたが、近年、遺伝子研究の進歩で、それが可能になりつつある。

人は親から髪の毛の色や目の色、顔の形や目の形以外にも体質に関する遺伝子を受け継いでいる。酒などのアルコール飲料を飲んだら、気分が悪くなる人がいるが、そういう体質かどうかは、その人の遺伝子を調べれば分かる。同様に、糖尿病や高血圧になりやすい体質かどうかも検査で知ることができる。

最近は遺伝子検査が安価に受けられるようになった。口の中の頬粘膜を綿棒で数回こするだけという手軽さだ。

もちろん、病気の原因は体質（遺伝子）だけではない。遺伝子検査の結果は厳重な保護を要する個人情報であることも確かだ。しかし、自分の体質を知って生活することで、病気になるリスクは下げることができる。

高血圧になりやすい体質を持っていることが分かった人が、塩分を控えた食生活や運動の習慣化で高血圧になるのを防ぐ――などが好例だ。

こうしたことが広く行われれば、健康で長生きする人が増える。いくら高齢化が進んでも医療費は増えず、元気な長寿者の力で、日本がますます元気な国になっていく。健康大国日本の将来は、予防医学の発展にかかっているといっても過言ではない。

医療

生活面「医療」の記事やコラムに関するご意見、情報をファクス（03・6256・2774）か電子メール（iryou@tokyo.nikkei.co.jp）でお寄せください。

医師の目

昭和大学歯学部顎口腔疾患制御外科学講座教授　新谷 悟氏 ④

「線」の治療か よく確認

「良い歯科医院、歯科医の選び方を教えてほしい」とよく聞かれる。特に最近インプラント治療（顎骨にチタン製の人工歯根を埋める外科処置を伴う治療）が広く行われ、事故の報道も散見されるようになってから、ますます増えた。

まず、強調したいのは日本の歯科医療は世界のトップレベルであり、これだけ充実した歯科医療を全国民が受けられる国は世界中どこを探してもないということである。そのうえで、良い歯科医の見つけ方について私見を述べる。

点と線――。その歯科医が治療にあたり、メンテナンスも含め時間的な「線」で治療を考えているのか、その場限りの「点」で治療を考えているのかを、治療の説明などから見極めることだ。

歯科治療は「治療→メンテナンス→新たな病気の予防」からなるもので、これを行うのが良い歯科医の条件だ。患者の話も聞かず強引に治療を進め、「痛い歯を治して終わり」は「点」の治療。そんな歯科医は避けた方がいい。

治療の選択肢をいくつも提示し、十分に説明してくれるかどうかも判断材料だ。歯科には、健康保険が利く診療と、（診療側が自由に価格を設定する）自由診療がある。例えば数年で抜かざるを得ない状態になる可能性がある歯に、自由診療で高額のさし歯を入れようとするのは良い歯科医とはいえない。

治療の選択肢を患者の視点で、患者に納得いくまで丁寧に説明してくれる人なら信頼できる。

歯科医院が清潔かどうかもしっかりチェックしたい。手袋を患者ごとに替えているか、器具や診療台の周りも含めて清潔かどうかを確かめることが大切だ。

インプラント治療では、①手術室を設けているか②手術室は他の患者から隔離した空間か③歯科医は手術着を着ているか④口の中をきちんと消毒して患者の顔の上に口だけが出る手術用の覆い布をかけているか――を見るべきだ。

実際の治療行為が丁寧かどうかはもちろん重要な要素だ。口内に乱暴に器具を入れたり、雑な治療が続いたりする場合は要注意だ。

インターネットなどで情報は集めやすくなったが、自分に合った歯科医院や歯科医を選ぶのは難しい。ほとんどの歯科医師は以上の条件を満たしているが、中にはそうでない人もいるので、慎重に選んでほしい。

口の健康は生活の質に大きく影響する。一人でも多くの方が日本の素晴らしい歯科医療と出合えることを願っている。

＝この項おわり

医療

生活面「医療」の記事やコラムに関するご意見、情報をファクス（03・6256・2774）か電子メール（iryou@tokyo.nikkei.co.jp）でお寄せください。